凡 例

- 一、 翻刻文の字体は、原則として原本の通りの旧字体・俗字等を用いた。
- 一、 異体字は、原則として原本の通り次のように表記した。
【例】 迨(迄)・救(數)・取(最)・逃(逃)・昏(紙)・卯(卯)・扣(控)・丈(丈)・拔(拔)など
- 一、 原本を読みやすくするため、読点「、」、並列点「・」を付けた。
- 一、 助詞として使用される次の変体仮名及び合字は原本の通り用いた。
江(へ)・而(て)・与(と)・者(は)・茂(も)・而已(のみ)・方(より)
- 一、 変体仮名は、地名・人名等の固有名詞に限り原本の通りとし、他は現代仮名に改めた。
- 一、 仮名については、平仮名・片仮名交じりは原本の通りとしたが、次の場合は小さい文字で表記した。
ヨ…漢文風に返って読む場合 【例】 以書付_ヲ
ケ…固有名詞・個数を示す場合など 【例】 八ヶ岳、壱ヶ所、六ヶ敷
ツ…時刻を示す場合 【例】 五ツ時
ニ…助詞の場合 【例】 候_ニ付
ノ…年月・方角の場合 【例】 申ノ年、辰巳ノ方
- 一、 送り仮名は原本の通りの平仮名・片仮名とし、片仮名は原則として小さい文字で表記した。
- 一、 漢字の踊り字「ゝ」は「々」と表記した。
- 一、 誤字、当て字、脱字と判断される文字などは原本の通り表記し、「(ママ)」、「(〇_{脱カ})」、「(〇_脱)」などを加えた。また疑義のある文字については「(〇_カ)」と表記した。
- 一、 敬意を表す「平出」^{へいしゅつ}は行を改め、「闕字」^{けつじ}は文字を詰めて表記した。
- 一、 読解の参考のため、各項目の冒頭に件名を付した。
- 一、 現代では不適切な表現と考えられる言葉があるが、歴史的な文脈を考慮して残した。
- 一、 原本の解説は、「白田古文書を読む会」が行った。